

令和6年度 第2回 長浜市図書館協議会

日 時：令和6年8月26日（月）午後1時30分～

場 所：ながはま文化福祉プラザ内 長浜まちづくりセンター 1AB 会議室

出席者：山本昭和会長、藤居みよし副会長、小北晶男委員、井上勝委員、鈴木茂喜委員、
森治美委員、山内真紀委員、福本恵祐委員、金澤潔委員、内藤悦子委員

欠席者：なし

事務局：下司生涯学習課長、森長浜図書館長、伊藤図書館企画サービス係長、栗原副参事、
松尾主幹、町本司書

傍聴者：なし

【開会の辞】

定数10人全員の出席により、会議成立の旨を宣言。

【開会挨拶】

生涯学習課長から挨拶。

【会議の公開について】

付属機関の会議の公開等に関する要綱第2条の規定により、会議の公開を決定。

傍聴者なし。

【図書館協議会の位置づけについて】

事務局より、図書館協議会の位置づけについて、説明。

【協議事項1 長浜市図書館基本計画(第2期)に基づく実施プラン令和5年度評価について】

(会長)

では、協議に入る。協議事項1、長浜市図書館基本計画(第2期)に基づく実施プランの令和5年度評価について。この件については、事前に小委員会が開催された。小委員会の総評を代表の委員にお願いする。

(委員)

この小委員会は、委員5名で構成、7月3日、4日の2回開催した。最初に委員から質問があり、この小委員会の位置付けや役割について全員で確認した後、評価に入った。それぞれの評価項目について、担当の職員から業務について説明を受けた後、委員と職員でやり取りしながら外部評価を行った。

まず、[【目標1】市民の役に立つ図書館]について。

この[指標項目1：個人貸出冊数]は、図書館活動において、その度合いを図る効果的な指標である。100万冊という貸出目標に対して実績が84万冊だったということをどう評価するかだが、令和6年度の目標数値を90万冊に引き下げたことについて、最終年度の130万冊という目標に照らしてどうなのかという疑問が出された。これについては、事務局で検討した結果、令和6年度の目標数値を100万冊に訂正するという回答があった。令和5年度の貸出冊数は、前年の令和4年度と比較して、わずかだが下回っており、計画策定時から毎年減少している。新長浜図書館開館直後に新型コロナウイルス感染症の影響を受けたとはいえ、個人貸出冊数の減少というのは大きな課題、問題点だと感じる。実績は最終年度の130万冊の目標数値から大きく乖離しており、その差を埋めるのは並大抵のことでは難しいと感じる。かなりの努力が必要な部分だと思う。

次に、[指標項目2：予約・リクエスト年間受付件数]だが、予約リクエストが多ければそれでいいというものではないが、この予約の伸びが貸出の増に結びついていないのが残念である。

[指標項目3：自主講座や展示の年間開催数]についても、令和6年度の目標件数が12件から14件に事務局から訂正があった。全ての項目に言えることだが、実績を最終年度の目標数値に少しでも近づけるように、ただ、6年度、7年度と上積みの目標数値の設定を単純に求めるものではないが、目標数値達成に向けてかなりの努力が必要と考える。

また、[指標項目4：レファレンス事例のHP公開数]に関して、レファレンスサービスも少しずつ浸透していて、さらなる情報発信を強化し、図書館利用の増大に期待したい。

[【目標2】だれもが利用できる図書館]について。

ここの[指標項目1：実利用者率]は、図書館を利用する市民を増やすということだが、最終目標数値が20%、つまり長浜市民の2割の方が図書館を利用するというのは、現実離れた数字に思える。市民の図書館利用が広がっていないという点は、もっと工夫が必要だと思われる。

[指標項目2：郵送・貸出点数]と[指標項目3：関係課や機関と連携した年間事業数]、ここは関係機関との連携ができており、目標数値を超えた実績となっており、評価できる部分である。

[【目標3】子どもが本と親しめる図書館]について。ここは、ちょっと苦戦している。

[指標項目1：園への団体貸出数]、ここについては目標数値をかなり大幅に超えた実績となっているが、この部分の業務量の増が他の図書館サービスに影響を与えることになっていないか、全体の業務量あるいは体制へのしわ寄せになっていないか、また量的な拡大に対応できる蔵書の絶対量の確保ができていないかどうか等が心配なところ。

残り3項目[指標項目2：小学4～6年生の1か月間の読書冊数が1冊以下][指標項目3：中学1～3年生の1か月間の読書冊数が1冊以下][指標項目4：13～18歳の利用者への貸出冊数]は、目標数値達成の厳しい部分である。ここは子ども読書活動推進計画に

関連する部分で、図書館だけでどうこうできる部分ではなく、関連機関との連携や協働が必要になる。実績の数値と程遠い最終目標数値を考えると、目標設定のあり方から考え直す必要があるのではないかと、また、従来のやり方で目標達成できないということであれば、根本的な取組方法を改めるなどの工夫が必要と考える。

[【目標4】まちの魅力を発信し、地域の文化的な拠点となる図書館]について。ここは、これからの活動に期待する部分である。

[【目標5】市民とともにつくる図書館]について。

[指標項目1：市民との協働事業の年間開催数]と[指標項目3：市民の展示や活動発表の場の年間提供数]について、支援する市民団体や対応する職員によって、対応にばらつきがないように、対応の仕方やその範囲等について、一定の成文化したルールを定める必要があるという指摘が出ていた。

[指標項目2：登録ボランティア数]は年度によって増減が見られるので、その要因や理由を分析する必要があると考える。減った原因あるいは増えた原因から、減った場合に歯止めをかける何らかの方法を見つけなければ目標達成は難しくなるのではないかと考える。

P11の[1.市民の身近に図書館サービスがある体制づくり]について。[指標項目1：サービスポイント数]については、現在、北部に3か所のサービスポイントがあるが、資料入替のための資料選択やサービスポイントまでの配送を行う職員の業務量はかなり膨大なものがあると考えられ、ある一定程度職員個人の頑張りに支えられている部分があるのではないかと感じている。ただ、このサービスポイントの維持については、利用者からもとても喜ばれているという声も寄せられており、この項目についての内部評価はBだったが、外部評価としてA評価とした。

[2.全体規模と各図書館の役割の見直し]について。ここは[指標項目1：蔵書更新率]という目標数値を掲げているが、1年間で約8万冊という大量の除籍冊数や長浜市立図書館全館で蔵書冊数を60万冊にするという数字の捉え方について、少し委員の間から疑問が出されていた。

[3.質の高い図書館サービスの継続的な提供]について。

[指標項目1：専門研修の年間受講者のべ人数]、研修などはzoomを利用して遠隔地での研修会にも参加できている。

[指標項目2：報道機関への年間情報提供数]の情報提供の部分について、ここの数字の出し方や捉え方としては、SNSでの発信件数やフォロワーの数など数値化できる指標項目が他にもあると思うので、そういうものを指標項目として捉えていくのもいいのではないかと意見も出ていた。

最後に、全体に共通して言えることだが、現時点で実績数値とかけ離れた最終目標の数値が見られるものがいくつかある。今までのやり方で、果たして最終年度の令和8年度にこの目標数値が達成できるのかという疑問がある。到達が難しければ、そのアプローチの

仕方ややり方を再検討するなど、何らかの抜本的な手法を講じる必要があるのではないかと考える。また、認知度不足、広報不足の部分については、全く新たな手立てを考えていく必要があるのではないかと考える。

以上、20項目を評価した。個人的な感想の報告になった感もあり、他の小委員会メンバーからの補足をお願いしたい。

(会長)

他のメンバーの方で何か補足があればお願いしたい。

(委員)

何点か補足させていただく。

1つは、基本計画の第2期については、新型コロナウイルス感染症の影響があるので、初め想定していた数値等に乖離があることは若干やむを得ないところもある。そういう場合、県等では中間年等に最終的な数値を見直すことがあるが、長浜市の場合は、見直しは行わず、初めに設定した数値に向けて努力していくとのことだった。

もう1点は、数字の出し方について。%で表すもの、例えば、分母を市民の人口にしているものなど基本とするものの規模が変わってもそれに合う形で数字が変わっていくものと、例えば10万や130万というような具体的な絶対的な数字で出すものがある。この絶対的な数字で出した場合に、やはり、人口等想定していたものが変わった場合は、当然ながら若干数値が変わってくる可能性はやむを得ないので、分析にあたっては、変わった要素について補足もしくは付随的な形でご説明いただいた方がよい。特に5年も経てば、想定した数字も変わってくるものもあるので、その辺は基本的な情報・条件の変化ということで把握しておいていただきたいと思っている。

あとは、目標数値と実績数値との乖離について、今期は見直さないとのことだったので、次回の数値設定の際は、乖離しないように考えてやっていただきたい。

(会長)

それでは、今のお二人の説明を聞いたうえで、何か意見や質問、感想などあれば。

(各委員) ~意見なし~

(会長)

では、私から。P11の[指標項目1：蔵書更新率]のところで、この蔵書更新率の出し方はこれで合っているのか、何か説明はあったか。

(委員)

それに関連して、会長とは違う内容になるかもしれないが、私も疑問に思うことがある。

資料3のP13[7.実績概要]の[(1)概要]の「蔵書冊数」と、P14の[(2)各種指標]の「蔵書更新率」の関係と、P5[3.長浜市立図書館の概要]の[(2)各図書館の概要]との関係の中で。

まず、P5[3.長浜市立図書館の概要]の[(2)各図書館の概要]の下から3つ目「開架閉架冊数」について。これはおそらく収容冊数だと私は理解したが、長浜市立図書館だと開架が18万冊、閉架が12万冊で、浅井が開架10万冊、閉架4万冊という風になっている。そこで、P13[7.実績概要]の[(1)概要]の「蔵書冊数」と比較すると、例えば長浜図書館だと、30万冊の収容冊数に対して、実際の蔵書冊数が305,688冊でほぼ満杯。浅井図書館だと14万冊の収容冊数に対して9万冊、同じようにびわ図書館だと17万冊の収容冊数に対して12万冊、虎姫図書館は8万に対して5万、湖北図書館も9万に対して5万、高月図書館も19万に対して13万ということになる。かなり余裕があるにも関わらず、なぜそんなに一生懸命になって大変な除籍作業をしているのかと大きく疑問に思った。さらに、通常貸出中の冊数が約1割はあるので、収容冊数×1.1は収容が可能である。棚に余裕があり、最終年度の目標が7.7%であるにもかかわらず令和6年度は11.3%という高い蔵書更新率を掲げる理由がわからない。

(事務局)

長浜市は6館が合併してできており、旧町・旧市時代からの所蔵本、同じ本をどの館でも持っているという状況が長くあった。その本に魅力がなくなり利用されないにも関わらず蔵書として持ち続けることは魅力ある棚作りの弊害となる。魅力ある本に出会ってもらうために、棚に余裕を持たせて取り出しやすい冊数にすること、1番上の棚、1番下の棚など使いにくいところはできるだけ空ける、本を立てて並べた表紙見せをする等、余裕のある棚づくりを目標にしている。そのために、現在、除籍に取り組んでいる。

また、蔵書冊数目標の60万冊というのは、人口11万都市における図書館の適正な冊数として設定している。

さらに、先ほどのご指摘とおり、P5の「開架閉架冊数」のところは、確かに収容冊数という言葉の方が適切である。

(会長)

古い本がたくさんあるからという感じか。

(事務局)

古くて情報が役に立たなくなっている本もたくさんある。

(会長)

私が疑問に思ったのは、蔵書更新率の計算の仕方である。P14[(2)各種指標]の真ん中あたりに「蔵書更新率」という項目があり、受入冊数プラス除籍冊数を蔵書冊数で割って100%にするという計算方法を使って、この目標設定10%、12%という数値を出している。しかし通常は、受入冊数を蔵書冊数で割ったものないしは除籍冊数を蔵書冊数で割ったものを蔵書更新率というのではないか。更新率100%ということは全部入れ替わっているということで、もし全部で10万冊の蔵書で、10万冊購入し10万冊は除籍したとすると、この計算だと更新率は200%になる。足すと2倍になってしまう。

(委員)

その点に加えて、蔵書冊数がいつ時点の数字なのか、年度始めなのか年度末なのか。また、受入冊数がどの年度に入ったものを指しているのか、除籍冊数はいつからいつに除籍したものなのか。その辺が整理されてないと、今、会長がおっしゃったように、この数字は何かおかしいなと感じると思う。私も、会長が理解されているように、単純に蔵書冊数分の除籍冊数×100ではないかと一般的には思う。その辺の基準日と期間をどのようにお考えか。

(事務局)

蔵書冊数については、3月31日、年度末の数字である。除籍冊数と受入冊数は令和5年度1年間分の冊数である。

(会長)

最初にこの目標を設定した時から、この計算の仕方でやろうとみんなの合意があったのか。それで12%という目標設定だったのか。

通常、開架の部分だけ見ると、新しく買った分は捨てないといけないから大体同じ冊数になる。つまり、購入冊数と除籍冊数が大体同じになって、そのどちらかの数字を蔵書冊数で割ったものが蔵書更新率というのが普通。

普通はそうだが、これは足して2倍になっている。初めからそういう計算の仕方で目標設定をしていたのなら、仕方ないと思うが。

(委員)

少なくとも、その年に受入した分と年度末までに増えた分とが、年度末だとかぶっている。

(会長)

通常、ずっと継続してやっていくと、買ったものと捨てたものが大体同じになる。

(館長)

計算式については、以前から、この受入冊数プラス除籍冊数で計算しているのは間違いない。ただ、会長がおっしゃるような計算が正しいかとも思うので、目標設定については、この計算方法にした経緯等も確認した上で再考したいと思う。

(会長)

私は計算の仕方が変だなと思っただけで、この目標設定に関しては、そのままです。

(委員)

もう1点、分母の蔵書冊数の中から分子の除籍冊数は減らしているか。年度末の蔵書冊数ということであれば、年度末までに除籍した分は減っているはず。その辺のところも確認しておくように。

(館長)

確認する。

(確認の結果、蔵書冊数は令和5年3月31日時点の数字であり、除籍冊数は含んでいない)

(会長)

他に何か質問や感想はあるか。

(委員)

蔵書更新率についてだが、私たち市民にとって、この数字の高い低いはどういう意味があるのか。例えば、更新率が高いと、新しい本がたくさん入ってくるイメージだが、先ほどの事務局の説明のように、必ずしも新刊が増えたというわけではなく、複本が整理されて空間が増えることで、本が手に取りやすくなるのがメリットなのか。

最近、図書館に行くと、何にもない空っぽの棚が増えたなど、感じている。今ここで話を聞くと、これから見やすいように本が配置されていくのだなということはわかるのだが、もし、ここにいなければ、空いた棚が今増えているので、本が減ってきた、どこに行っても探せばいいのか等と選択肢が減少していくようなマイナスのイメージを持ってしまう。そういう意味で、この数字が意味するものを、私たち利用する者はどう受け止めるといいのか教えていただきたい。

(会長)

通常、蔵書更新率は高い方が良いと言われている。計算の仕方だが、通常は開架部分、

表に出ている部分の蔵書数で新しく買った本の冊数を割る。だから、たくさん買えば買うほど更新率が高く、通常は高い方が良いと言う。では、新しく買うとどうしても捨てないと入らないので捨てていくが、相対的に不要なものを捨てていくので、魅力的なものが入ってきて、相対的に魅力的でないものが抜けていく。それが頻繁になされているから、更新率が高い方が良い。そこに除籍冊数を入れており、しかも閉架の部分も入れて計算しているから、わかりにくくなってしまうが、数字は高い方が良い。

(委員)

補足だが、P5の各館の「開架閉架冊数」を見ると、例えば、高月だと開架が10万冊、閉架が9万冊で、19万冊が収容冊数となっている。おそらく開館当初は、6万冊くらいでオープンするので、19万から6万を引いた13万冊分の余裕がある。今、年間におよそ6万冊から10万冊ぐらい新刊が出る。そのうち、漫画や学習参考書、医学の専門書等を落としていった5万～6.6万冊の中から選書していくが、図書費が、例えば1500万円として、1500円単価とすると、1万冊くらい買える。開館当初からある程度の間は図書費を増やして、蔵書の幅を持たせるようなことをやっていき、大体10年から20年ぐらい経つと棚がいっぱいになる。20年なり10数年の蔵書、年間に出た本から必要なものを収集した幅が出た厚みのある蔵書構成になる。

そこから今度は、旅行書や法律、医学の本など、置いておいて、誤った知識を利用者に与えてしまうものは、当然下げていって廃棄しなければならない。また、テープで修理した本やきれいでない本、物理的に棚に置いておくのはどうかと思うものも当然下げる。そこで、その本がまだ必要であれば、買替という形で更新するのか、別の本で代用できるのか等を考えながら、廃棄や受入をやっていく。

それからもう1つは、見方によっては、棚がいっぱいになったら、もう本は買わなくていいという話にもなりかねない。魅力的な棚を保つためには、必要なものや新しいものを入れていき、古いものを捨てていくという新陳代謝をやっていかなければならない。そのためには、図書費をそれなりに確保し、新しい本を入れ、捨てる分はきちんと更新していくことができるような財政的な担保を確保しなくてはならないので、除籍についても説明していかなければならない。そして、きちんと説明していく中で、更新率はある程度の高さを保たないといけない。

(会長)

他に何か質問や意見はあるか。

(各委員) ~意見なし~

(会長)

なければ、更新率のところは、今まで通りの計算の仕方で良いとする。

また、長浜市図書館基本計画(第2期)に基づく実施プラン令和5年度評価については、この評価案をもって、図書館協議会の意見として、承認ということで良いか。

(各委員) ~異議なし~

(会長)

では、令和6年度の目標についてはどうか。

(事務局)

追加資料の『実施プラン令和6年度事業計画の評価シート』を基に事務局から、小委員会でもいただいた質問や指摘に答える形で説明させていただく。

まず、P1【目標1】の[指標項目1：個人貸出冊数]。当初は、この個人貸出冊数の目標を、前年度実績84万冊を受け、90万冊に設定していた。しかし、最終年度を見据えて高い目標を持つことと、令和5年度の目標100万冊よりも下げるのはおかしいとのご意見から、100万冊に修正した。また、令和5年度の貸出冊数84万冊が令和4年度の貸出冊数よりも減っていることについて、丁寧な分析と職員間での話し合いを行った。貸出については年代別では、19歳から22歳の若い世代の貸出が減っている。逆に、50代以上の貸出冊数は増えていた。また、貸出冊数に占める予約本の割合だが、過去10年間で比較すると、平成26年度は13%だったが、今年の令和5年度は20%あり、10年間の間に、世間一般で人気のある本や新聞の欄等で紹介された本が借りたい、ピンポイントにそれだけが読みたいという傾向が見られるようになった。そこで今後は、読みたい本には確実に応えつつ、書架の回遊、本棚の間を歩いていただくことで、思いがけない本に出会ってもらえるよう、カウンター等で丁寧にご案内していきたいと思う。

また、新刊を選書する際に利用が見込まれるものは、あらかじめ複本購入していく。何よりカウンターでの対応が大切で、予約やリクエストのサービスをまだ遠慮される方もるので、そういう方々の無言の要求を汲み取って、選書会議に反映させていきたい。

以上のようなことに中心に、丁寧に取り組み、貸出が増えるように、100万冊に近づくように、令和6年度取り組んでいきたい。

次に、P2[指標項目3：自主講座や展示の年間開催数]。当初、内部では12回にしていたが、計画の最終年度を見据え、昨年度より回数を増やすため、14回に上方修正した。

P3【目標2】[指標項目1：実利用者率]。15%の目標をもっと上げないと最終年度の目標が達成できないとのご意見があったが、この15%の実利用者率を達成しようとする、実利用者が16,950人必要となる。ただ、令和5年度の実績が15,412人だったので、あと1500人以上増やさないと達成できない。正直、この人数でもなかなか厳しいところがある。令和6年度は、例えば、出前講座に行った時や小学生の来館や見学の機会、ブックス

タートの機会等を捉えて、丁寧に図書館利用をアピールしたいと思っている。カウンターでの対応を丁寧に、新規利用者にリピーターになってもらえるようにし、新規事業を計画して図書館の魅力を内外にアピールするような機会を設けたい。ただ、この目標値を上げるのはなかなか厳しいということになり、15%のままとさせていただきます。

先ほどからの話にあるように、最終年度を見越した目標でないところもいくつかあるが、私どもでは、あくまで前年度を踏まえて、職員がモチベーションを高く持って目標達成を目指せるように、この実施プランを進めているので、どうかご理解いただきたい。

あと1点。P8【目標5】[指標項目2：登録ボランティア数]。資料2の『成果・目標毎年度管理表』と合わせてご覧いただきたいが、ボランティアの登録人数に毎年度変化があるので、その点について分析しておくようにとのご指摘があった。

分析の結果、令和4年度に修理と装備に特化した図書館の専門ボランティアを養成するための講座を開催し、80人に登録をいただいて増えたが、新型コロナウイルスの感染防止のため、活動日や活動人数に制限を設けていた。その影響で離れてしまわれた方もあり、令和5年度は65人に減少した。新型コロナウイルス感染症も落ち着いたので、図書館から働きかけや呼びかけを行い、丁寧に受け入れていくことで、令和6年度は登録人数の増になるようにしていきたい。

(委員)

利用者数を増やすということの説明の中で、複本数の増加についての話があったが、予約の考え方がここ何年かで大きく変わっていると思う。どこの図書館でもそうだが、今までだと来館して予約カードに書いてカウンターに出すというのが基本的だったのが、今はインターネットを通じてスマホやパソコンで簡単に予約ができるようになった。貸出中のものがどれぐらいで、いつ返ってきて、何人ぐらい予約があるのかということもすぐわかる。だから、有名な方の新刊をポンと気楽に予約でき、みんなが読みたい、読んでいる本については、数10から100、場合によっては200ぐらいの人の予約がついてしまう。だから、その辺りの特定の本に対してなんとかしなければならぬと考えて複本を増やすということが、本当に図書館サービス、限られた予算、限られた仕事量、人数ということの中で適当かどうかというのは、私は逆に疑問に思う。では、どれぐらい予約がついたら複本を増やすのか、あるいは新刊が出た時にどういう基準で複本数を当初発注するのか、その辺のラインをどう見直そうと思っておられるのかなと思う。今、その細かい基準をお答えくださいとは言わないが、予約というものが昔と全然違うので、草の根を分けても探そう、要求された本は提供していきましょうという部分と、すごくベストセラーで、誰でもみんな読みたいような本の提供というのは、しっかりと分けて考えていただきたい。

(会長)

今の意見についてだが、そうは言っても待っておられるので、一定の冊数は必要だと私

は思う。

(委員)

一定の冊数は必要だが、冊数をどんどん増やしていくのはいかがなものかというところ。

(会長)

他に、意見がなければ、令和6年度の目標についてはこれでよろしいか。

(各委員) ~意見なし~

(会長)

では、協議会として承認する。この後はどのようなスケジュールで進めていくのか。

(事務局)

では、令和5年度の事業評価と令和6年度の目標について、このような形で確定させていただく。ついては、令和5年度の事業評価について、協議会を代表して会長から全体の講評を後日いただきたい。会長から講評をいただいたものを反映させて、この事業評価は9月中に図書館のホームページで公開する予定である。

【協議事項2 令和5年度の事業報告について】

(会長)

では、次の協議事項に移る。協議事項2、令和5年度の事業報告について、事務局から説明をお願いする。

(事務局)

資料3『長浜市立図書館令和5年度事業報告書(暫定版)』について説明をする。

資料については、一通りのお目通しがあったものとしてポイントのみ説明していく。

まず、P3[2.組織機構]の[(1)組織図]。市民協働部の中に、市民活躍課、生涯学習課、文化福祉プラザ室、文化スポーツ課、人権施策推進課、国スポ・障スポ大会推進室の6つの課があり、図書館は生涯学習課である。その下の課内機構にあるように、生涯学習課の事務分掌としては、生涯学習課長の下に生涯学習係、文化財保護係、そして長浜図書館長、その元に図書館企画サービス係と図書館総務係がある。

P4の[(2)職員数]だが、職員数は全員合わせて36人。その内訳は、館長、課長代理・副参事、主幹、主査、主事、会計年度任用職員である。うち司書の有資格者率は88.9%。職員は、[(3)職員配置]にあるように、全員が長浜図書館の所属としながら、

各館にも兼務で勤務をしている者もいる。

P8の[4.長浜市立図書館の沿革]。P10の令和5年7月のところからご覧いただきたい。7月に旧長浜図書館の解体工事に着工、2月に完了し土地を県に返還した。3月には長浜市子ども読書活動推進計画（第4次）を策定した。また、余呉文化ホール図書室を終了し、隣接の余呉まちづくりセンターに図書コーナーを設置し、予約本のお渡しなどを開始した。

P14の[(2)各種指標]。図書館の一般的なサービス指標で、上から2番目の「貸出密度」、これは長浜市の人口1人当たりどれぐらいの貸出冊数になったかの数字で、1人当たり7.4冊の貸出となった。次の「実質貸出密度」は、1回でも図書館を使った方が何冊借りられたかということで、54.5冊であった。お1人1年間に55冊ほど借りられたということ。

少し飛んで「市民1人当たりの図書費」だが、これは人口1人当たりどのぐらいの資料費があるかという数字で、251円であった。1番下「市民1人当たりのサービス効果」だが、これは貸出冊数に購入図書の平均単価をかけて、そこから図書館の運営経費を差し引くと、人口1人当たり10,687円の還元ができたという金額で、10,687円の行政効果があったという数字になる。

P15[8.令和5年度決算額]について。

歳入の部について。上から4段目の図書館費寄附金は、長浜信用金庫様から100万円の寄附金をいただいた。

歳出の部について。上から9段目の修繕料は、決算額が6,578,143円となっており、このうちの浅井図書館の高圧受変電設備の修繕料1,510,300円については、令和4年度予算だったが、部品の供給の関係で令和5年度に繰り越し、執行した。

上から14段目の工事請負費は、決算額が78,650,000円となっており、旧長浜図書館の解体工事費となっている。

その下の庁用器具費380,600円、こちらはブックトラック4台分、そして、その下の機械器具費225,000円は拡大読書器1台分、その下の図書購入費28,394,400円のうちの394,400円については、先ほど歳入の部で説明した長浜信用金庫様の寄附金100万円から支出をした。

歳出合計は248,724,821円となっており、予算に対する執行率は97%となっている。

最後に、参考として正規職員の人件費は約8,600万円であったことを記載させていただいた。

P23[(6)団体貸出]について。各種団体の読書活動にある程度まとまった冊数の貸出をしており、利用団体や貸出冊数が増加している。特に放課後児童クラブの利用が増えている。[(3)団体貸出冊数]の学童保育というところだが、令和5年度は23,031冊だが、令和2年度は15,000冊であり、毎年利用が増加している。

P30の1番下、[(11)館内インターネット端末利用件数]について。ここは取り方が変

わった項目である。令和4年度までは、利用者が本で調べられないことを自分で調べるために各館の開架フロアーに数台ずつ端末を設置していたが、スマホの普及やさざなみタウンにはフリーwi-fiがあることなどから撤去した。今は各館で保管しているタブレットを使って職員と一緒に調べるようになり、令和5年度からは、その使用回数をカウントするようになったため、経年で見ると数値に大きな変化が見られるようになった。

P32[⑥展示・施設利用等]にあるように、図書館の展示スペースで各所、各機関と協力して展示を行っている。市役所の各課からは啓発の機会として、また学校からは生徒の学習成果の発表の場として、また滋賀文教短期大学や滋賀県立大学と連携した事業の展示、またイベントに関連した展示など、パネルやチラシ、物品と一緒に関連図書の展示を行った。図書館の資料を使って、このように連携協力が様々な広がりを持てるように令和6年度も継続していきたいと思っている。

P35について。「けやきっ子プロジェクト」とは、市の子ども読書活動推進計画に基づいたもので、読書を通じて長浜市の子どもが市の木であるけやきのようにのびのびと育つことを目指して、図書館が中心に行う一連の事業名である。

[③子育て支援事業]について。ブックスタート事業については、新型コロナウイルス感染防止のため保健師に手渡してもらっていた絵本を、令和5年9月からは図書館の職員が対面でブックスタートの説明や絵本の読み聞かせもしながら、絵本を手渡すことができるようになった。残念ながら、長浜市の出生数は減っているが、対面で再開できるようになったブックスタート事業にしっかり取り組む体制を作り、絵本を使った子育てを応援していきたいと考えている。はぐはぐお話し会という赤ちゃん向けのお話し会の参加人数も大きく増え、令和4年度は528人だったが、令和5年度には955人もの参加があった。新型コロナウイルス感染症の位置付けが変わったことから、赤ちゃんのお出かけ先として出かけやすくなったのではないかと思う。

P37の[(3)園・学校支援]のところの[②の図書館見学・職場体験等の支援]だが、中学校の職場体験も再開され、9校から申込みがあり、受入れた。受入人数は少ないが、この生徒さんには、図書館を理解して利用者になってもらえるようにということを心がけて対応している。

その下、[③教職員・学校支援]について。教育センターの主催で、教職員や保育者向けの自己啓発研修の1つとして、絵本の読み聞かせ講座があり、図書館の職員が講師を務めている。園の若い先生を中心に、小学校や中学校からも受講がある。先生方に保育や授業の合間などに読み聞かせを日常的に取り入れてもらえるように、読み聞かせの意義や方法をお伝えしている。例年は20人ぐらゐの受講だが、令和5年度は倍以上の51人の受講があった。

以上、主なものだけ簡単に説明させていただいた。

(会長)

今の説明を聞いて、委員の方から質問や感想はあるか。

(委員)

確認だが、P15の決算額のところの予算額というのは、当初予算額ではなく3月補正まで全て含めた予算額か。

(事務局)

最終予算額である。

(委員)

数字が入っている表のことだが、4桁、5桁、6桁などの数字があるもので、セルによってポイントの大きさが違うが、できれば統一的な数字のポイントを使って、桁数が明らかに違うのがわかるようにしていただきたい。ポイントを同じにして、右寄せにさせていただくと、数字の大小がパッと見でわかるので、そういう表記にしていきたい。

(会長)

他に感想や意見はないか。

(委員)

P4の職員の数についてだが、7月の小委員会の中でも、利用がなかなか伸びないということで、もう少し余裕があれば、限られたサービスポイントへの手厚いサービスや図書館になかなか来られない方への仕掛け作りみたいなものができるのではないかなと思った。6館を運営しつつ、なおかつ図書館基本計画に則した図書館サービスを実施するために、新たに業務を増やすことはなかなかできないと思う。また、今年は、来年に向けたコンピューターシステムの更新もあるとのことで、図書館を運営しながら、更新のシステムの選定も進めていくのはかなり大変だと思う。どれほどの業務量になるのかは伺い知れないが、その中で、かつ実施プランの新たな部分も踏み込んでいくというのはかなり難しいと見られるので、令和6年度や令和7年度は、ある程度、業務の守備範囲をしぼっていくことも必要なのではないかと感じている。

また、令和7年度のシステム更新はなんとか目途が立つにしても、問題はその次のシステム更新の時ではないかと思っている。つまり、今から7~8年後、このP4の職員構成の中で、どういう体制になっているのかを考えた時に、かなり厳しいのではないかと思われる。7~8年後に、今いる若い人たちが中堅どころになってシステム選定に関わる時に、果たして今いる若い人たちは残っているのかと思う。市役所の人事配置によって変わる可能性もあるので、長期的な職員配置、職員構成を維持していかなければ、次の次の段階はかなり厳しいのではないかなと感じた。長期的な目で職員の問題を考えていただきたいと思

う。

(会長)

他にあるか。なければ、資料3の『令和5年度事業報告書(暫定版)』については、9月議会の決算議決後に確定版とする。

(事務局)

9月には図書館のホームページに公開していく。その際には、お手元の暫定版という文字を消して、確定版として取り扱っていただきたい。

(館長)

この決算見込み、決算額につきましては、まだ9月の議会で承認を経していない。9月議会での承認を経てからの公開とさせていただくので、委員の皆様方にも議決までは、お取り扱いについてはご注意をお願いしたい。

【協議事項3 その他】

(会長)

では、協議事項3、その他について、事務局から何かあるか。

(館長)

『人と情報がボーダレスに行きかう知の拠点をめざして(『みんなの図書館』令和6年9月号掲載)』について紹介。

(事務局)

次回、第3回の開催日程について。

(会長)

他に何かあるか。

(委員)

学校への貸出図書について。前回の協議会でもお話しさせていただき、事務局からは検討するということだったと思っている。業務量や絶対量、蔵書の更新や複本の話等色々出ていて、方針の見直しでそういう風にさせてもらったということだった。令和5年度の実績報告書で言うと、園・学校支援の中の資料の支援のところに挙がっている部分で、令和6年度は、園はあるが、学校の部分がなくなってしまうということだと思う。教室に置かしてもらった本がなくなるということは、子どもたちにとってみたら、手に取れる場所にあ

るというのはすごく大事なことで、読まない子も隙間時間にそばにあれば手に取ることもある。学校でも、学校図書館に借り行ったり、学級や休み時間以外に借りに行ったりはするが、手に取れるところにあるというのはすごく大きいと思う。令和6年度は無理でも、7年度以降今後の中で教室に貸してくださるシステムをまたお願いしたい。本当に何校、何学級もあって、膨大な量になるので、難しかったら難しいで仕方がないが、7年度や8年度に向けて、またお願いをしたい。

(会長)

他にないようなら、これで議事を終了する。最後に、副会長からお言葉をいただきました。

(副会長)

本日は暑い中、また夏休みがもうすぐ終わるという忙しい中、皆様にご出席・ご審議いただきました。令和6年度も5か月が過ぎましたが、実施プランの目標に向かってさらに色々努力し、市民にとってより良い、より魅力的な図書館づくりになお一層努めていただきたい。

(会長)

委員の皆様には長時間にわたり、ご意見等いただき、感謝する。それでは、進行を事務局にお返しする。

【閉会挨拶】

長浜市立図書館長より挨拶。

【閉会の辞】